

# 日米戦争の 起点をつくった外交官

在中華民国初代公使  
ポール・S・ラインシュ著



田中秀雄訳 A5判ソフトカバー352頁 本体 2,700円 ISBN978-4-8295-0846-6

## 在中華民国初代公使ラインシュは 北京での6年間(1913-1919)に何を見たのか？

対華二十一か条の要求、袁世凱の台頭と失脚、対ドイツ参戦問題、孫文と広東政府との対立、五四運動……  
めまぐるしく展開する政治情勢の中、北京寄りの立場で動き、日本の中国政策を厳しく批判したラインシュの回想録  
*An American Diplomat in China* (1922) の本邦初訳。

彼がウィルソン大統領に送った書簡は“外交史上最も煽動的”  
“日本に対する猛烈な告発”とも言われた。

20年後に日米対立、開戦に至る起点が、  
このラインシュの反日的言動にあると言ってよい。

- ＊中国政界の要人、山座円次郎をはじめ各国公使とのやりとり、貴重な情報の収集など、臨場感あふれる記述
- ＊袁世凱の葬儀の描写は歴史絵巻を思い起こさせる迫力



北京のアメリカ公使館  
(1900年頃)

**著者** ポール・サミュエル・ラインシュ  
Paul Samuel Reinsch (1869-1923)

米国の政治学者・外交官。米国ウィスコンシン州生まれ。ウィスコンシン大学卒業後、同大学で植民学を講義。1913年在中華民国初代公使として赴任。1919年帰国。1920年中国政府の顧問となり、本書出版の翌年中国で死去。

**訳者** 田中秀雄 (たなか ひでお)

1952年福岡県生まれ。慶應義塾大学文学部卒。日本近現代史研究者。著書に『優しい日本人、哀れな韓国人』(WAC出版)、『中国共産党の罠』(徳間書店)、『日本はいかにして中国との戦争に引きずり込まれたか』、『朝鮮で聖者と呼ばれた日本人』(以上、草思社)、『満洲国建国の正当性を弁護する』(G.ブロンソン・リー著、翻訳、草思社)、『暗黒大陸中国の真実』(R.タウンゼント著、共訳、芙蓉書房出版)、『続・暗黒大陸中国の真実』(R.タウンゼント著、共訳、芙蓉書房出版)ほか

【解説】第一次世界大戦が日米関係の曲がり角だった (田中秀雄)

### 第一部 古い中国と新しい共和国

中国の独裁者・大総統／政治の舞台裏を垣間見る…

### 第二部 袁世凱の退場

有名な二十一か条の要求／北京、戦争の日々…

### 第三部 戦争と中国

北京のアメリカ人起業家／中国のボスたちが北京にやってくる／中国人は借金をするようになった…

### 第四部 戦争の最後の年、そしてその後

石井・ランシング協定／日本、敵意をむき出す／匪賊、陰謀家、そして分裂した家…

10月中旬 新刊搬入予定です

配本部数申込締切は 9月27日(火) です

FAX 03-3813-4615

芙蓉書房出版

〒113-0033  
東京都文京区本郷3-3-13  
http://www.fuyoshobo.co.jp  
TEL. 03-3813-4466  
FAX. 03-3813-4615

発行 芙蓉書房出版	注文数	注文者
日米戦争の起点をつくった外交官		
10月新刊 本体 2,700円	部	